

2020年卒  
Vol.09

## 7月1日時点の就職活動調査

キャリアス就活 2020 学生モニター調査結果 (2019年7月発行)

2020年卒業予定者の採用面接が6月1日に正式に解禁されてから1カ月が経ち、就職採用戦線は大きな山を越えた。7月1日現在のキャリアス就活・学生モニターの就職活動状況について調査を行ったところ、内定率は3年連続で8割を超えていたことがわかった。

### 1. 7月1日現在の内定状況

- 内定率は84.0%。6月時点(71.1%)より12.9ポイント上昇
- 前年同期実績(81.1%)を2.9ポイント上回る
- 就職活動終了者は全体の72.0%。前年(68.2%)を3.8ポイント上回る。継続者は28.0%

### 2. エントリー状況、セミナー参加、選考試験の受験状況

- エントリー社数の平均は29.7社。前年(30.7社)に比べ1社減少
- ES提出14.1社、筆記試験10.2社、面接試験7.8社。いずれも前年同期と同水準

### 3. 動画選考、WEB面接の受験状況

- 受験経験者は「自己PR動画」23.2%、「WEB面接」19.7%、「録画面接」13.6%
- 「WEB面接」は賛成が6割に上る。地方学生を中心に支持

### 4. 就職活動継続学生の動向

- 選考中の企業は平均2.2社。受験予定を合わせた持ち駒企業は4.1社
- 「新たな企業を探しながら、幅広く持ち駒を広げていく」34.3%。6月(26.4%)より増加

### 5. 就職決定企業の属性

- 就職決定業界は、文系は「銀行」「情報処理・ソフトウェア」「建設・住宅・不動産」、理系は「情報処理」「電子・電機」「建設・住宅・不動産」の順
- 就職活動開始当初からの第一志望企業に決めたのは、決定者の36.7%

### 6. 就職決定企業で働きたいと具体的に思ったタイミング

- 「選考中」(30.8%)が最多。「インターンシップ参加時」が大幅増加(19.8%→24.7%)

### 7. 売り手市場感の実感

- 売り手市場を実感する学生は全体の約半数(49.7%)
- 但し「完全に売り手市場だと思う」は年々減少(18.3%→14.8%→11.1%)

## 調査概要

- 調査対象 : 2020年3月に卒業予定の大学4年生(理系は大学院修士課程2年生含む)  
回答者数 : 1,261人(文系男子411人、文系女子382人、理系男子312人、理系女子156人)  
調査方法 : インターネット調査法  
調査期間 : 2019年7月1日~4日  
サンプリング : キャリタス就活2020学生モニター(2016年卒以前は「日経就職ナビ・就職活動モニター」)

### 1. 7月1日時点の内定状況

7月1日現在の学生モニターの内定率は84.0%。先月調査(6月1日現在)の71.1%から1カ月で12.9ポイント伸び、3年連続で8割を超える高水準となった。前年同期実績(81.1%)に比べ2.9ポイント高い。人手不足が深刻さを増す中で、就職環境は昨年よりも売り手市場の傾向が強まっている。7月の内定率が84%台をマークするのは、リーマン・ショック前の2008年卒者以来のことだ。

内定取得学生のうち就職先を決めて就職活動を終了したのは80.6%。6月調査では54.6%だったので、この1カ月で大きく増えた。

モニター学生全体を分母にとると、調査時点で就職先を決定して活動を終了した者の割合は67.7%。複数内定を保留しているなど未決定である者(4.3%)を合わせると、終了者は72.0%になる。前年同期(68.2%)より3.8ポイント上昇しており、終了のペースはさらに早まった。そのぶん継続者の割合は減少し、活動継続者は「内定あり」(12.0%)、「内定なし」(16.0%)を合わせて28.0%。就職戦線は、大手企業の夏採用や中堅中小企業を主軸に第2ラウンドへと移っている。

なお、継続者の割合を文理別に見ると、文系31.9%・理系21.3%で、文系のほうが10ポイント以上多い。

＜7月1日現在の内定状況＞ \*「内定」には、内々定を含む (%)

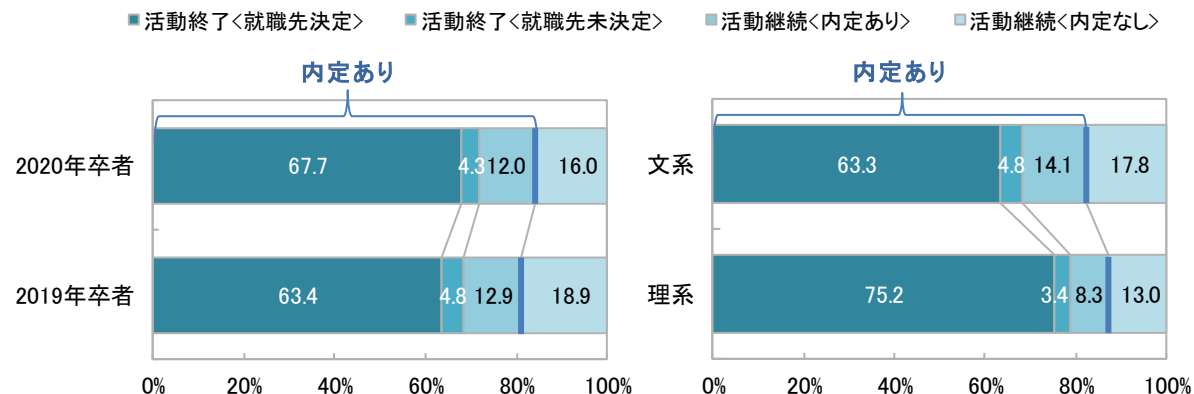
		全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
内定あり		84.0 (81.1)	76.9 (78.3)	88.0 (81.5)	84.6 (82.4)	91.7 (83.6)
内定なし		16.0 (18.9)	23.1 (21.7)	12.0 (18.5)	15.4 (17.6)	8.3 (16.4)
内定者のうち	就職先を決定し活動終了	80.6 (78.2)	76.6 (77.5)	77.4 (72.5)	88.3 (82.2)	83.2 (83.5)
	活動は終了したが複数内定保持	4.2 (5.3)	5.1 (6.2)	5.7 (5.6)	2.7 (4.0)	2.1 (5.3)
	進学などの理由で就職活動を中止	0.8 (0.6)	0.6 (0.0)	0.3 (0.4)	1.5 (1.6)	1.4 (0.8)
	就職活動継続	14.3 (15.9)	17.7 (16.4)	16.7 (21.6)	7.6 (12.3)	13.3 (10.5)

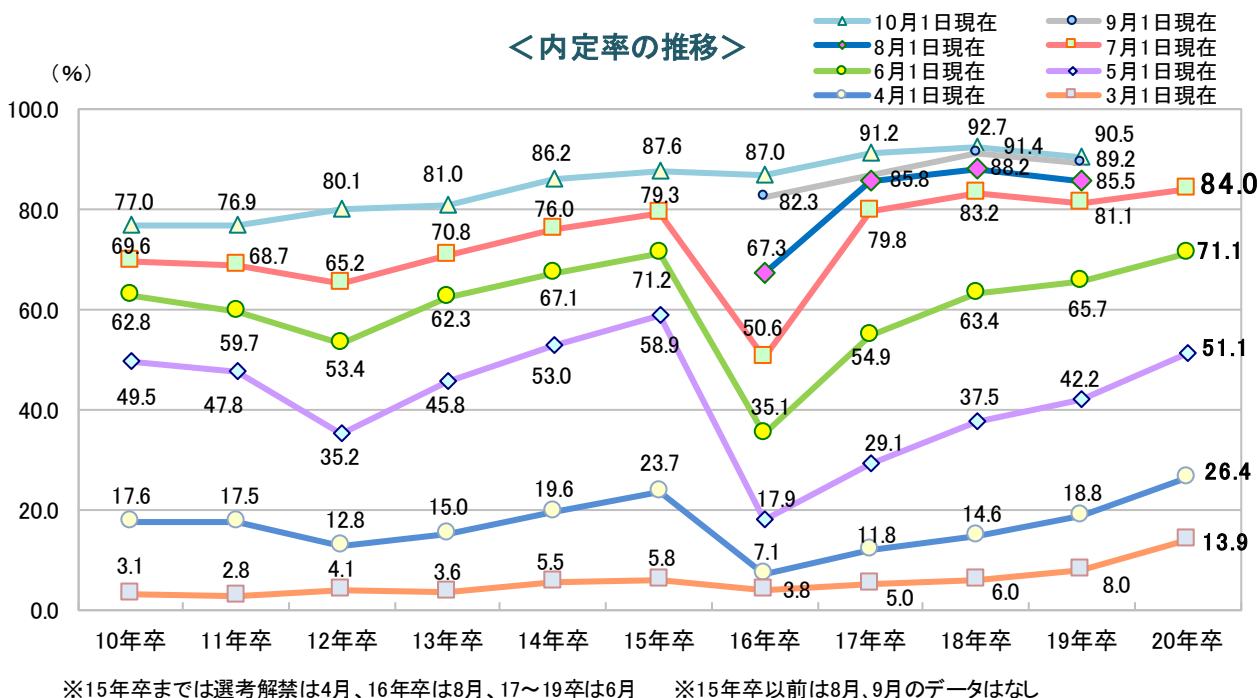
(社)

		全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
内定社数/平均		2.2 (2.3)	2.3 (2.3)	2.3 (2.3)	2.0 (2.2)	2.0 (2.3)

※ ( ) 内は前年(7月1日現在)の数値

### ＜活動状況の分布(2カ年/文理別)＞





## 2. エントリー状況、セミナー参加、選考試験の受験状況

7月1日現在の就職活動量をまとめた。これまでの一人あたりのエントリー社数の平均は29.7社。6月調査 (28.5社) から1.2社微増した。3月調査時点で23.1社で前年同期 (22.4社) をやや上回っていたものの、その後あまり伸びず、7月時点で前年 (30.7社) を1社下回る。企業セミナーへの参加社数も前年実績を割り込んでおり、平均11.8社と前年を2社下回っている。

一方、エントリーシート提出社数や、筆記試験、面接などの選考試験受験社数は、前年実績とほぼ同数を保っている。興味のある企業を厳選してエントリーしたことで、実際の受験企業数が減ることはなかったと考えられる。志望企業を絞り込んでエントリーする傾向は、今年一層強まったと言える。

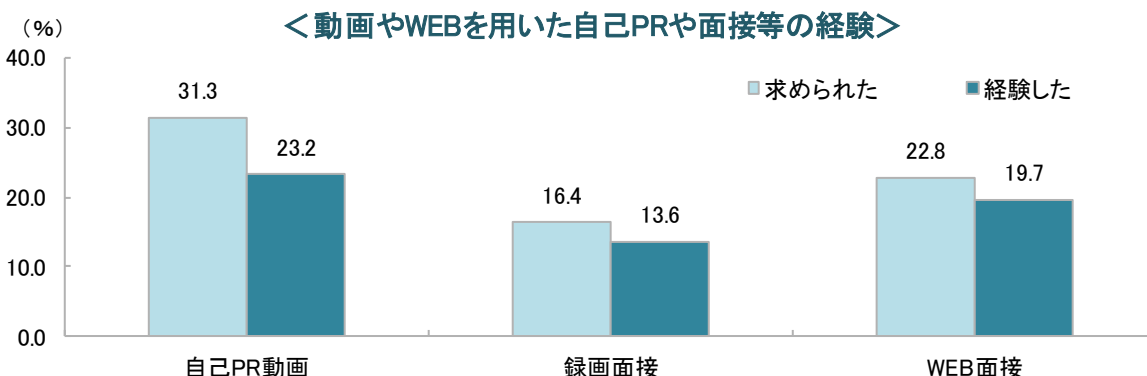
### <7月1日現在の就職活動の状況 (活動量)>

	全体	前年全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
エントリー (社)	29.7	30.7	32.8	33.2	22.2	27.3
企業単独セミナー参加 (社)	11.8	13.9	13.2	14.4	7.9	9.8
合同企業セミナー参加 (社)	11.0	10.9	12.8	11.3	9.2	9.6
学内セミナー参加 (社)	6.7	7.9	6.9	7.0	6.7	6.0
WEBセミナー視聴 (社)	7.8	7.1	8.1	8.4	6.4	8.0
エントリーシート提出 (社)	14.1	14.0	15.5	15.3	10.3	14.6
筆記・WEB試験受験 (社)	10.2	10.0	11.9	10.6	7.4	9.8
グループディスカッション受験 (社)	3.4	3.6	3.8	3.4	2.6	3.2
面接試験受験 (社)	7.8	7.9	8.8	8.6	6.1	6.8
うち、最終面接 (社)	2.7	2.6	2.9	2.8	2.5	2.4

### 3. 動画選考、WEB面接の受験状況

自己 PR 動画、録画面接、WEB 面接について経験を尋ねた。「自己 PR 動画」の提出を求められたのは約 3 割 (31.3%) で、実際に応じた学生は 23.2%。「録画面接」は、求められた経験、受験した経験ともに 1 割台 (それぞれ 16.4%、13.6%)。「WEB 面接」は 2 割前後だった (22.8%、19.7%)。

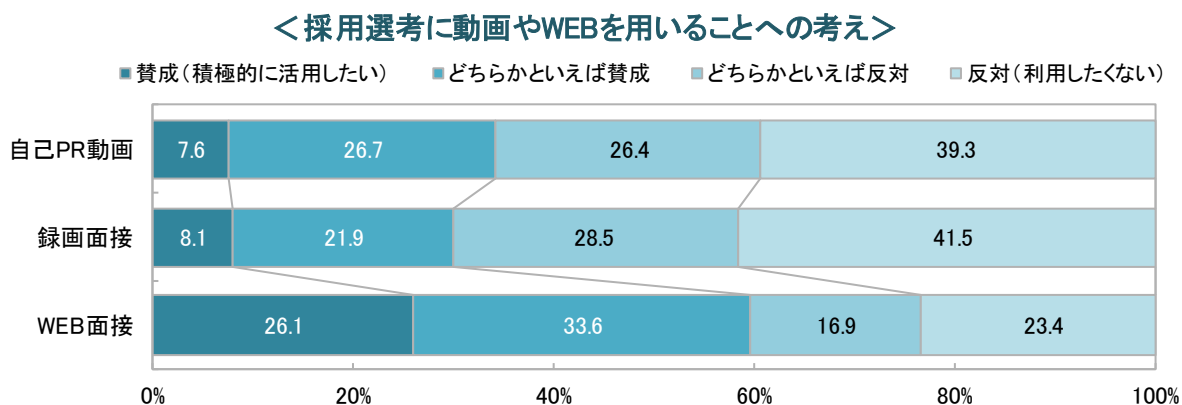
未経験者を含めそれぞれについての賛否を尋ねたところ、「自己 PR 動画」「録画面接」は「賛成」が 3 割程度にとどまる。一方、WEB 面接は「賛成」の合計が約 6 割 (59.7%) に上る。地方学生を中心に、移動時間や交通費を節約できることにメリットを感じる声が多く寄せられた。



※「自己 PR 動画」=1 分程度で自己 PR などを録画し、提出するもの。

「録画面接」=PC やスマートフォンで、あらかじめ設定された質問にオンデマンドで答えるもの。

「WEB 面接」=インターネット経由で実施するライブ面接。オンライン面接。双方向のもの。



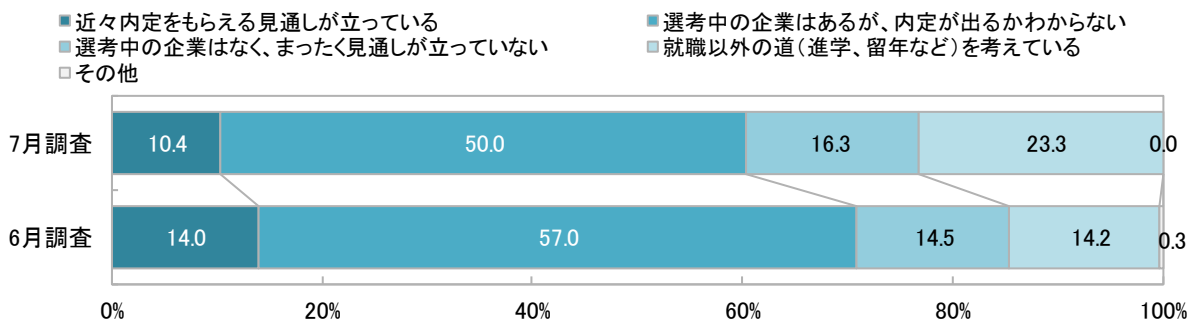
#### ■採用選考に動画やWEBを用いることへの考え

- 動画でなら、文字だけでは伝わらない雰囲気など様々なことを伝えることができると思う。 <理系男子>
- 一次面接ではどの企業でも同じような質問をされるのに、移動時間を加味してスケジュールを組んだり、会場に足を運んだりするのが大変だったので、WEB でできるとありがたい。 <文系女子>
- 自己 PR 動画は、志望度が高くなければやらないほど面倒なので、スクリーニングになると思う。 <文系男子>
- 動画やWEB 上で選考を行うことで、遠方の企業へのエントリーも気軽に行うことができる。 <理系女子>
- 自己 PR 動画と録画面接は、企業側の労力削減のように感じられる。WEB 面接は、地方の就活生の負担が減り、企業にとっても人材の確保の幅が広がると思うので賛成です。 <文系男子>
- 私は面接官の顔を見ながら話した方が、反応を確認できるので話しやすい。 <理系男子>
- 録画面接は場所の確保も必要でやりづらい。特に AI 面接は話が噛み合わないのでやめてほしい。 <文系男子>
- 自宅に Wi-Fi 環境がないので、もし要求されていたら撮影場所に困っていたと思う。 <理系男子>
- 体験してみた結果、きちんとした動画を撮影することが難しかった。ただ、遠方の学生には役立つと思う。 <文系男子>

#### 4. 就職活動継続学生の動向

未内定者に内定獲得の見通しを尋ねると、「近々内定をもらえる見通しが立っている」は約1割(10.4%)で6月調査よりも割合が下がった。未内定者の多くが先の見通しが立っていない状況だ。なお、「就職以外の道(進学、留年など)を考えている」という回答が23.3%に上り、未内定者の4人に1人が来春の就職の見送りを視野に入れていることがわかった。

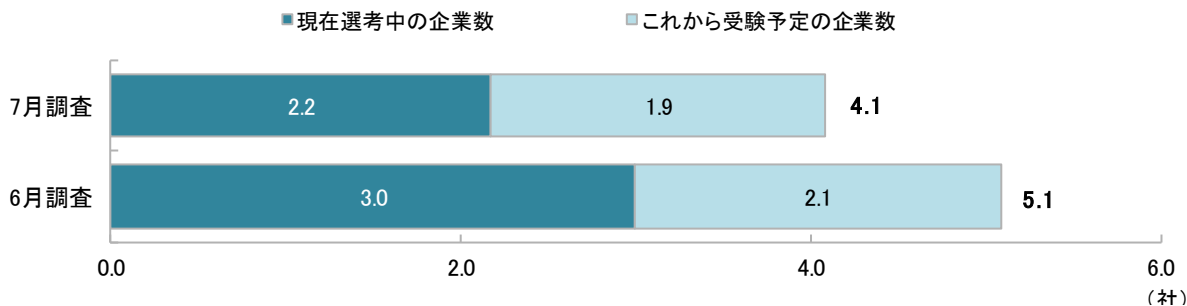
##### <未内定者が内定を得る見通し>



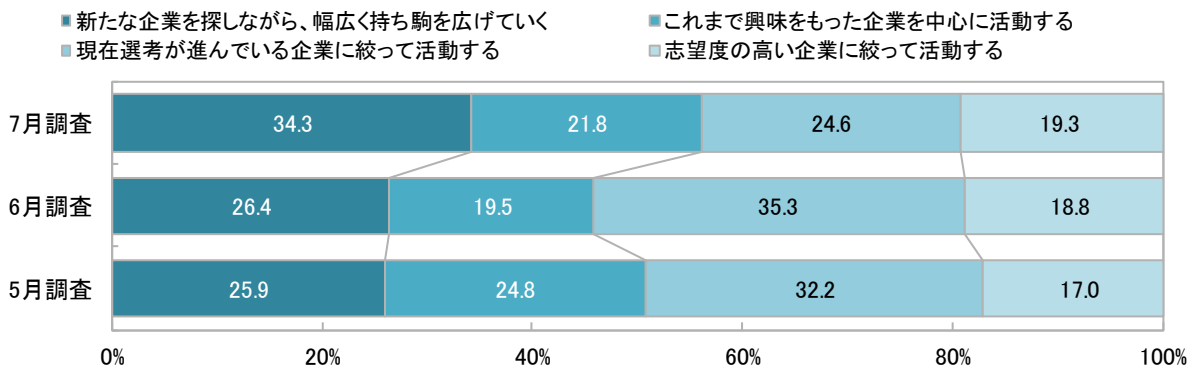
内定保持者も含め、7月1日時点で就職活動を継続している学生(モニター全体の28.0%)の、現在選考中の企業数は平均2.2社。これから受験予定の企業数1.9社を足し合わせた、いわゆる持ち駒企業数は4.1社。先月(5.1社)に比べ1社少ない。

今後の方針・戦略を見ると、6月調査までは「現在選考が進んでいる企業に絞って活動する」が3割を超え最も多かったが、今回は2割台に減少。代わりに「新たな企業を探しながら、幅広く持ち駒を広げていく」が3割を超え最多となった(34.3%)。今ある持ち駒では不十分だと感じている学生が多いことが推察できる。

##### <持ち駒企業数>

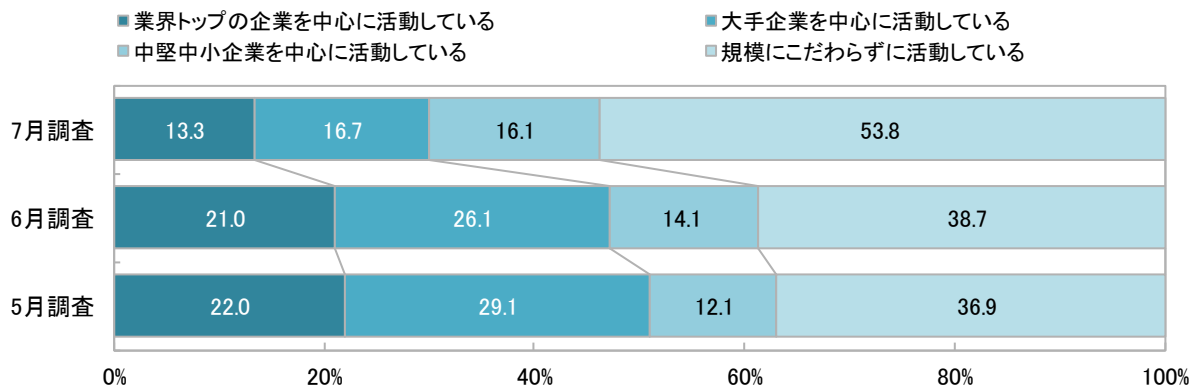


##### <今後の就職活動の方針・戦略>



活動の中心としている企業の規模についても、この 3 カ月のデータを比較すると、6 月調査までは大手狙いの学生が約半数を占めていたが、7 月調査では 3 割に減少(「業界トップ中心」「大手企業中心」の計 30.0%)。7 月調査では「規模にこだわらずに活動している」学生が過半数を占めた (53.8%)。就職戦線も後半戦に入り、就活生の志望先に変化が出てきたことがわかる。

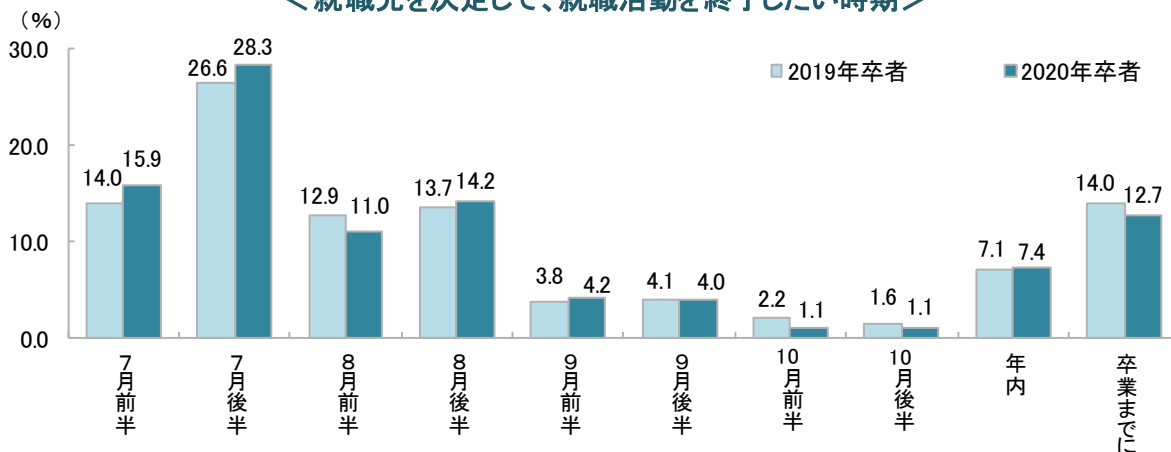
### ＜就職活動の中心としている企業規模＞



就職先を決定して就職活動を終了したいと思う時期は、「7月後半」が最も多い (28.3%)。7月前半・後半の合計は4割強で (計44.2%)、8月後半までを合わせると約7割に上る (計69.4%)。できるだけ早く終えたいと考えている学生が大半だ。

一方で、長期戦を覚悟している学生も一定数見られる。10月以降の時期を回答した学生は2割を超える (計22.3%)。10月1日の正式内定日にこだわらず、秋以降も継続することを想定しているようだ。

### ＜就職先を決定して、就職活動を終了したい時期＞



### ■就職活動継続学生の声

- なんとしても夏休みまでには就活を終わらせたい。 <文系男子>
- 自分に何が合っているのか何もわからないまま始まった就活だったが、現在、数社の面接を通して適性のありそうな仕事がわかってきた気がする。 <文系女子>
- 学業との両立がこれほどまで大変だと思っていなかった。 <理系男子>
- 私のようにまだ 1 社も内定をもらえていない人も多いので、そのような人を対象に合同説明会があってもいいと思います。1 社も内定がない人は業界の幅を広げようとしているので合説がいいと思います。 <理系女子>
- 内定が出ていないので、この時期はかなり精神的に追い込まれる時期でもあるが、企業の人もそれを汲んで早めに連絡をくれたりするのがありがたいと感じる。 <文系男子>

### 5. 就職決定企業の属性

ここからは、就職先を決定して就職活動を終了した学生（モニター全体の 72.0%）のデータを見ていこう。まず、就職決定企業の業界を文系・理系ごとに見てみた。文系が就職を決定した業界は、1 位が「銀行」（10.6%）で、前年 2 位から順位を上げた。2 位「情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト」（8.4%）、3 位「建設・住宅・不動産」（5.8%）と続く。理系は、前年に続き「情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト」（11.9%）が 1 位。2 位「電子・電機」（10.8%）、3 位「建設・住宅・不動産」（9.9%）の順。「情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト」「建設・住宅・不動産」は、文理ともに上位 3 位以内にランクインしており、業界全体で採用意欲が強いことがうかがえる。

#### <文系>

2019年卒		%	2020年卒		%
1位	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト	11.5	1位	銀行	10.6
2位	銀行	8.6	2位	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト	8.4
3位	運輸・倉庫	6.1	3位	建設・住宅・不動産	5.8
4位	建設・住宅・不動産	5.1	4位	調査・コンサルタント	5.6
5位	調査・コンサルタント	4.7	5位	電子・電機	5.0
	保険	4.7	6位	運輸・倉庫	4.8
7位	商社(専門)	4.4	7位	保険	4.4
8位	証券・投信・投資顧問	3.9		マスコミ	4.4
9位	人材紹介・人材派遣	3.7	9位	機械・プラントエンジニアリング	3.8
	電子・電機	3.7	10位	商社(専門)	3.6
	マスコミ	3.7		情報・インターネットサービス	3.6

※上位10業界を掲載

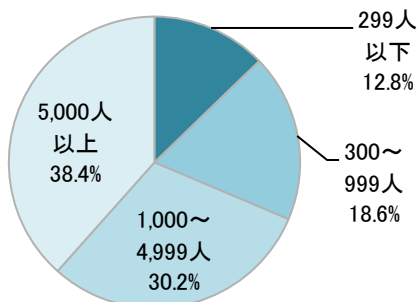
#### <理系>

2019年卒		%	2020年卒		%
1位	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト	12.9	1位	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト	11.9
2位	自動車・輸送用機器	9.7	2位	電子・電機	10.8
3位	電子・電機	9.4	3位	建設・住宅・不動産	9.9
4位	建設・住宅・不動産	9.1	4位	自動車・輸送用機器	9.1
5位	医薬品・医療関連・化粧品	6.6	5位	医薬品・医療関連・化粧品	8.0
	素材・化学	6.6	6位	素材・化学	7.1
7位	水産・食品	5.0	7位	機械・プラントエンジニアリング	4.8
8位	機械・プラントエンジニアリング	4.7	8位	調査・コンサルタント	3.4
9位	調査・コンサルタント	4.4	9位	運輸・倉庫	3.1
10位	運輸・倉庫	3.4		エネルギー	3.1
	精密機器・医療用機器	3.4		水産・食品	3.1
			精密機器・医療用機器	3.1	
			その他サービス	3.1	

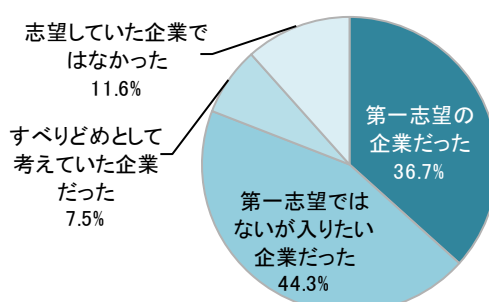
次に、就職決定企業の従業員規模の比率を見てみたい。従業員1,000人以上の大手企業に決めた学生を合計すると約7割に上り（計68.6%）、大手企業に決める学生が大半に上ることがわかる。

また、就職決定企業の就職活動当初の志望状況を尋ねたところ、「第一志望の企業だった」が4割近い（36.7%）。「第一志望ではないが入りたい企業だった」（44.3%）と合わせると8割超（81.0%）。現時点で終了した学生は、就職活動当初の希望をかなえ、大手企業に就職を決めたケースが多いことが推測できる。

#### <就職決定企業の従業員数>



#### <就職活動開始当初の志望状況>

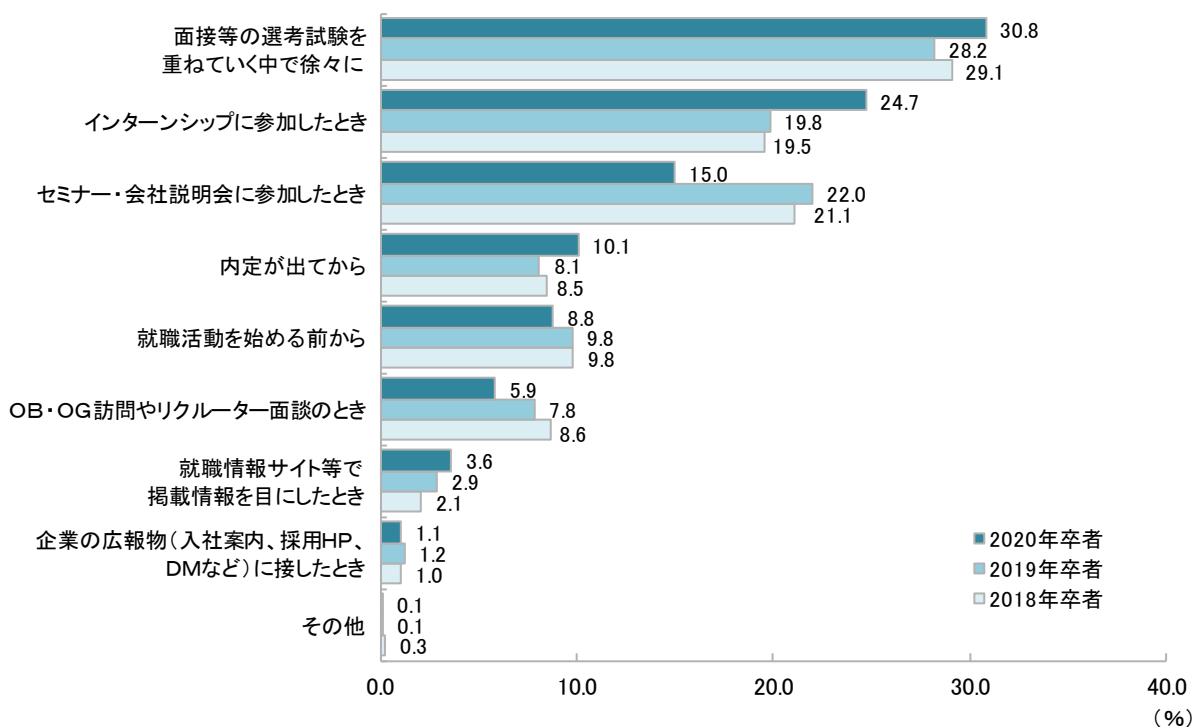


## 6. 就職決定企業で働きたいと具体的に思ったタイミング

就職決定企業で働きたいと具体的に思ったタイミングを尋ねた。最も多いのは「面接等の選考試験を重ねていく中で徐々に」が約 3 割 (30.8%)。続く「インターンシップに参加したとき」(24.7%) は、前年調査 (19.8%) に比べ、大幅にポイントが増加。一方「セミナー・会社説明会に参加したとき」(15.0%) は、前年より減少した。

インターンシップ参加学生は年々増加傾向にあるが、それに伴い、インターンシップ参加を機に就職先として志望する学生も増加していることが顕著に表れている。

### <就職決定企業で働きたいと具体的に思ったタイミング>



## 7. 売り手市場感の実感

就職活動を通じて「売り手市場」を感じたかどうかを尋ねた。「完全に売り手市場だと思う」「やや売り手市場だと思う」合わせて約半数が、売り手市場を実感している (計 49.7%)。ただし、3 カ年分を比較すると、「完全に売り手市場だと思う」が年々減少しているのが目立つ (18.3%→14.8%→11.1%)。今年は、早期から一貫して高い内定率をマークしてきたが、学生にとっては必ずしも楽な就職戦線ではなかったと考えられる。

### <売り手市場についての実感>

